

研究 主題	自分の思いや考えを分かりやすく伝え合うことができる児童の育成 －「話すこと・聞くこと」における支援ツールの活用を通して－
----------	---

第3学年国語科学習指導案

指導月日 令和7年10月24日
所属校名 大崎市立古川第一小学校
氏名 伊藤 弘章

1 単元名「話したいな、すきな時間」（東京書籍 新しい国語3下）

2 単元の目標

- (1) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。
[知識及び技能] (1)オ
- (2) 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができる。
[思考力、判断力、表現力等] A(1)イ
- (3) 言葉がもつよさに気付くとともに、国語を大切にしながら、話す活動を通して思いやりを伝え合おうとする。
学びに向かう力、人間性等

3 単元で取り上げる言語活動

言語活動：自分のことについて話す。

関連：[思考力、判断力、表現力等] A(2)ア

4 単元観

本単元は、小学校学習指導要領国語編第3学年及び第4学年の内容「思考力、判断力、表現力等」の「A 話すこと・聞くこと」の(1)イ「相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること」に重点を置く指導事項として設定されたものである。

本単元では、感じたことや考えたことについて「話す」系統の単元として位置付けられている。児童はこれまで、「始め」「中」「終わり」の組み立てで話すということを学習してきた。このような経験を踏まえ、本単元では、自分の好きな時間についてスピーチする活動を通して、自分の気持ちを伝えるために必要な事柄を選び、話の中心が聞き手に伝わるように話す活動を行う。そのために必要となることは様子や行動、気持ちや性格を表す語彙を増やすことや、語句や文章の中でそれらの言葉を使えるようになること、更には言葉の性質による語句のまとまりについて理解することと考える。また、聞き手を見ながら話すことを学習する際は、相手意識を持たせて、相手を見て話すことで、話していることが十分相手に伝わっているのかを判断したり、聞き手の反応を見ながら話したりすることが求められる。

本単元では、メモカードやスピーチカードなどの支援ツールを活用して、話す内容の流れをつかみ、児童が安心して話すことができるように工夫する。また、スピーチの練習の際には、ペアやグループを作り、話し手の話を聞いて、アドバイスカードを使い、互いに助言することができるようにする。

5 児童の実態 [第3学年1組 24名]

これまでに児童は、実践授業Ⅰ「グループの合い言葉を決めよう」において、司会の進行に沿ってグループで話し合う活動に取り組んできた。話し合い活動では、支援ツールとして示した話型が有効に働き、発言に不安を抱いていた児童も話の構成をイメージしやすくなり、自信を持って発言する姿が見られるようになった。一方で、問い返しや感想など、相手の発言を受け止めて応答するやり取りには広がりが見られなかった。

本単元を行うに当たり、児童の実態を踏まえて、意識調査を行った。

	質問内容	選択肢	割合
1	ペアやグループでの話合いで、自分の考えを話すことはできるか。	できる	71.4%
		だいたいできる	19.0%
		だいたいできない	4.8%
		できない	4.8%
2	自分の考えに理由を付けて話すことはできるか。	できる	42.9%
		だいたいできる	38.1%
		だいたいできない	19.0%
		できない	0%
3	テーマに沿って、ペアで話すことはできるか。	できる	42.9%
		だいたいできる	38.1%
		だいたいできない	9.5%
		できない	9.5%
4	みんなの前で自分の考えを伝えるのはできるか。	できる	42.9%
		だいたいできる	14.3%
		だいたいできない	28.6%
		できない	14.2%

この結果から、「自分の考えを話すことができる」と回答した児童が71.4%、「だいたいできる」まで含めると9割に達しており、話すことに対する意欲や自信を持っていると判断できる。また、「自分の考えに理由を付けて話すことができる」と答えた児童は42.9%、「だいたいできる」が38.1%であり、多くの児童が理由付けを意識した発言に取り組んでいることが分かる。「テーマに沿って話すことができた・だいたいできる」と答えた児童も8割を超えた。

一方で、「みんなの前で自分の考えを伝えることはできるか」という問いに対しては、「できる」が42.9%、「だいたいできる」が14.3%であるのに対し、「だいたいできない」が28.6%、「できない」が14.2%となっている。ペアやグループでの発表には慣れてきているが、全体の前となると依然として苦手意識を持つ児童が一定数存在していることがうかがえる。また、相手の発言に問い返しをしたり感想を述べたりする応答的なやり取りは十分に身に付いておらず、聞き手の役割を明確に意識させることが今後の課題である。

以上のことから、児童には「聞き手を意識して『話の中心』を明確に伝える力」とともに、全体の前でも安心して自分の思いや考えを伝えられる力を更に育成していく必要がある。

6 指導観

本単元では、言語活動例「ア 説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動」を具体化するために、単元を通して取り組む言語活動として「自分のことについて話す」という活動を位置付ける。この活動では、自分の伝えたい「好きな時間」を決めて、好きな理由やどのような時に好きだと思えるかが聞き手に伝わるように話すことをねらいとする。話す内容と構成の検討を行う際は、児童が伝えたいことを決め、どの材料をどのように組み立てると良いか考えることで話の中心が伝わるように話す力を身に付けさせる。

以上のことから本単元の重要指導事項である「A 話すこと・聞くこと」の(1)イ「相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること」の実現に適した言語活動と考える。

そこで、第1時では、児童にこれまでの学校生活で取り組んできたスピーチ経験を振り返らせ、話の中心が伝わるように話すことへの課題意識を高める。

第2時では、スピーチの話題や話す題材を集めさせる。また、話題を決めて必要な材料をメモカードに整理し、友達と意見交換をする中で内容の見直しを促す。

第3時では、メモカードを基に「始め」「中」「終わり」の構成を意識してスピーチカード（原稿）を作成させ、話の中心の明確化を図る。

第4時では、前時で考えたスピーチカード（原稿）を活用し、伝えたいことが聞き手に伝わるように話す練習を行う。また、言葉カードを活用し、自分の気持ちを的確に表すのに合う言葉を工夫し、原稿に付け加える。

第5時では、導入で児童にとって身近である校長が話している動画を取り上げ、伝えたい話の中心について考えさせる。話し手にはスピーチカード（原稿）を用いて練習を行わせ、グループ練習で助言をもらいながら改善できるようにする。聞き手には、アドバイスカードを活用して、観点を「話の中心が伝わっているか」に絞ってチェックさせる。その上で、良かった点や改善すると良い点を一言感想として直接伝えさせる。これにより、話し手は自分のスピーチがどのように受け止められたかを実感させ、次の学習への意欲を高める。

第6・7時では、全体の前で発表する。スピーチカード（原稿）を見て読み上げることが目的にならないように、聞き手に向かって話すことを意識できるようにする。話す内容や順序が合っていれば、言葉や言い回しが原稿と違って構わないことを児童に伝え、どの児童も安心してスピーチできるように環境を整える。

第8時では、これまでの練習や発表を振り返り、話の中心がはっきりするように話すためにはどのような工夫を行い、どのようなことを考えたのかを発表させることで、身に付いた力を集約させる。

7 研究主題との関連

研究主題「自分の思いや考えを分かりやすく伝え合うことができる児童の育成ー「話すこと・聞くこと」における支援ツールの活用を通してー」

本研究において、国語科「話すこと・聞くこと」の学習における「伝え合う」と「支援ツール」について、次のように定義する。

「伝え合う」とは、自分の思いや考えを相手に伝えるだけでなく、相手の発言を受け止め、更に応答するという双方向的なやり取りである。

「支援ツール」とは、児童が安心して発言したり、相手の意見に注目して聞いたりするために、考えや表現を支えるための具体的な手立てである。本単元においては、メモカードやスピーチカード（原稿）、言葉カード、アドバイスカードを支援ツールと位置付ける。これらを活用することで、自分の考えを整理して話の中心を明確にしたり、相手の意見を受け止めて応答したりする力を支えることができる。

(1) 支援ツールを活用した指導の工夫

- ① メモカードを活用し、好きな時間とその理由、具体的な事例を整理させる。友達にカードを見せ合う活動を通して、「どの理由が一番伝わりやすいか」「もっと詳しく聞きたいところはどこか」を相互に確認させる。
- ② スピーチカード（原稿）を「始め」「中」「終わり」に区切って構成させ、話の流れを視覚的に捉えられるようにする。練習段階ではカードを手に持ちながら、聞き手を見て話すことを意識させる。
- ③ 言葉カードを提示し、気持ちを表す言葉や、理由を言うときに使う言葉（「～から」「なぜなら～から」など）を選択させ活用させる。発表後には聞き手の感想を受けて、言葉を付け加えたり選び直したりすることで、表現をより豊かにする。

ア 気持ちを表す言葉

どきどきする、ひやひやする、きんちょうする、わくわくする、楽しくなる、元気が出る
ほっとする、落ち着く、安心する、すっきりする など

イ 理由を言うときに使う言葉

～から	例：本を読んでいると、いろいろな体験ができるからです。
なぜなら～から	例：なぜならば、トラの場面のきんちょう感はみんなに伝わったからです。
～ので	例：表紙や題を見ると、どんな本か想像できるので、本を読むのが好きです。
～ため	例：休みの日に動物の秘密について調べるために図書館に行きます。

(2) 自信を持って伝え合う表現活動の工夫

- ① 発表の段階化を行う。まずペアで伝え合い、次にグループ、最後に全体発表へと展開させる。
- ② 聞き手の役割を明確化する。アドバイスカードに「話の中心が分かったら◎」「気持ちの表す言葉を使っていたら◎」といったチェックリストを用意し、発表後にその理由を話し手に伝えさせることで、聞き手が主体的に関わる姿勢を育てる。
- ③ 安心して発言できる雰囲気作りを大切にする。原稿どおりでなくても自分の言葉で伝えることの価値を教師が繰り返し伝える。

8 単元の指導と評価の計画

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。(1)オ	①「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができる。A(1)イ	①進んで話の中心をはっきりさせるために工夫し、学習の見通しを持って自分のことについて話そうとしている。

(2) 単元の全体計画（8時間扱い 本時 5／8）

時	○主たる学習活動	形態	評価規準 ○：記録に残す評価 ・：指導に生かす評価	評価方法
1	○児童がこれまでのスピーチの経験を振り返り、自分の話が相手に伝わっていたかを考えることで「話の中心を明確にする」ことへの意識を高める。 ○児童が教師のスピーチを参考にして、自分の好きな時間について話す活動への関心を高め、学習の見通しを持つ。 ○事前に児童から好きな時間の内容を募った上で、メモカードに書き出す。 「休み時間」「図画工作の授業」「体育の授業」 「給食の時間」「家でテレビを見ている時間」 「家で遊んでいる時間」「習い事をしている時間」 「スポーツをしている時間」など	一斉・個人		学習計画表 振り返りの記述 観察
2	○前時の学習を振り返り、スピーチの話題を決める。 ○選んだ話題について、話す材料を集めてメモカードに記入する。その際、好きな理由を書き込み、順序立てて整理する。 ○メモカードに書いたことを友達に見せ合い、選んだ話題について意見を交換させる。友達の意見を踏まえて、自分のメモを見直す。	個人・ペア	○思考・判断・表現①	学習計画表 振り返りの記述 メモカードの記述 観察
3	○メモカードを活用し、話の中心として伝えたいことと話の組み立てを考えて、スピーチ原稿を書く。 ○スピーチカード（原稿）を書く際は、メモカードに書いた自分の好きな時間の理由の中から、話の中心として伝えたいことを選ぶ。 ○話の中心がはっきりするように材料を選ぶことが大切だということを確認し、「始め」「中」「終わり」を意識して、原稿を書く。	個人	○思考・判断・表現① ・知識・理解①	学習計画表 振り返りの記述 スピーチカード（原稿）の記述 観察
4	○前時で考えたスピーチカード（原稿）を活用し、伝えたいことが聞き手に伝わるように話す練習をする。 ○言葉カードを活用し、自分の気持ちを的確に表すのに合う言葉を工夫し、原稿に付け加える。	個人・ペア	○思考・判断・表現① ・知識・理解①	学習計画表 振り返りの記述 スピーチカード（原稿）の記述 発言、観察

5 (本時)	<p>○児童にとって身近である校長先生が話している動画を取り上げ、伝えたい話の中心について考えさせる。</p> <p>○グループでスピーチの練習をする。</p> <p>○言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話す。</p> <p>○聞き手は、アドバイスカードを基に「話の中心が伝わる話になっているか」の観点を持って聞く。</p>	個人・グループ	<p>○思考・判断・表現①</p> <p>・主体的に取り組む態度①</p>	学習計画表 振り返りの記述 発言、観察
6・7	<p>○全体の前で発表する。</p> <p>○話し手は、聞き手の様子を見ながら話す。</p> <p>○聞き手は、アドバイスカードに「話の中心が伝わる話になっているか」「話の中心が伝わるように気持ちを表す言葉を工夫しているか」「相手に伝わるように話し方を工夫しているか」の視点で記述し、感想を書く。</p>	全体（スピーチ大会）	<p>○思考・判断・表現①</p> <p>・主体的に取り組む態度①</p>	学習計画表 振り返りの記述 発言、観察
8	<p>○単元全体の学習を振り返り、話の中心がはっきりするように話すためにどのようなことを工夫し、どのようなことを考えたかを発表する。</p> <p>○学習したことをどのように生かしていきたいかを確認、今後の話合いや学級活動への意欲を持つ。</p>	一斉・個人	<p>○思考・判断・表現①</p>	学習計画表 振り返りの記述 発言、観察

9 本時の計画

(1) 目標

- 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができる。 [思考力、判断力、表現力等] A(1)イ
- 言葉が持つよさに気付くとともに、国語を大切にしながら、話す活動を通して思いや考えを伝え合おうとする。 学びに向かう力、人間性等

(2) 本時の指導に当たって

本時では、これまでに考えたスピーチ原稿を基に、気持ちを表す言葉や話し方を工夫しながら練習する。導入では、児童にとって身近である校長が朝会で話している動画を取り上げ、「話の中心は何か」について注目して考えさせる。その後、スピーチの仕方のモデルとして「好きな時間」についての2種類のスピーチ動画（エラー動画、モデル動画）を視聴させ、両者を比較させることで、「話の中心が伝わるスピーチ」とはどのようなものかを実感させる。その際、「話の中心」のポイントを示し、特に「話の中心を意識すること」を押さえる。

展開前半のグループでの練習では、聞き手にアドバイスカードを活用させ、「話の中心が伝わったか」の単一の視点に注目して話を聞くようにさせる。その後、聞き手が良かった点や改善点など一言感想として話し手に直接伝えることで、話し手が自分のスピーチが友達にどう受け止められたかを知る手掛かりが得られるようにする。

展開後半では、聞き手の意見を基に全体で交流し、友達のスピーチの工夫や改善点を共有する。教師は、聞き手が注目した表現や改善のヒントを意図的に取り上げ、強調する。その後、話し手は友達からの助言を生かしてスピーチ原稿や話し方を見直し、再度練習する。聞き手は前回との違いを意識して聞くことで、話の変化を実感しやすくする。

終末では、「聞き手がどのような工夫に注目したか」「友達のアドバイスがどのように役立ったか」を振り返らせる。最後に、再度教師が聞き手の存在があるからこそ、話し手がもっと工夫しようとする気持ちになることを伝え、次時の全体発表への意欲につなげる。

(3) 指導過程

段階	学習活動 ○主な発問・指示 ◆予想される児童の反応	形態	指導上の留意点	評価
導入 10分	<p>1 前時までの学習を振り返る。 ○前は言葉カードを使ってスピーチで自分の気持ちを表す言葉を工夫してきました。</p> <p>2 校長が話している動画を取り上げ、伝えたい話の中心について考える。 ○校長先生の話の内容について考えながら聞きましょう。 ◆伝えたい話の中心は何か、意識して動画を視聴する。 ◆校長先生の好きな時間についての話だ。 ◆校長先生が好きな時間はチャレンジャーの準備をすること。</p> <p>3 本時に取り組む「好きな時間」について、教師のモデルスピーチを聞く。 ○先生の「好きな時間」について聞きましょう。動画は2つあります。どちらが相手に伝わりやすいか考えながら聞きましょう。 ○1つ目の動画のスピーチで気付いたことはありませんか。 ◆下を見て早口で話していた。 ◆声が小さくて内容がよく分からなかった。 ○「声の大きさ」や「話す速さ」、「目線」に気を付けて2つ目の動画を見ましょう。 ◆「声の大きさ」や「話す速さ」、「目線」に気を付けて動画を視聴する。 ○2つ目の動画のスピーチで気付いたことはありませんか。 ◆相手を見て、話す速さもちょうど良かった。 ◆大きな声で話していて聞きやすかった。</p> <p>4 本時のめあてと学習計画表を確認する。 ○今日の学習のめあてと学習計画表を確かめましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>話の中心をはっきりさせて、聞き手に伝わるスピーチをしよう。</p> </div>	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・「話の中心」とは、「好きな時間の理由」について話していることを確認する。 ・校長が話している動画を取り上げ、伝えたい話の中心について考えさせる。 ・「好きな時間」についてのスピーチ動画の2種類（始めのエラー動画、次にモデル動画）を視聴させ、両者を比較させることで、話の中心が伝わるスピーチとはどのようなものかを実感させる。 ・「話の中心」のポイントを示し、特に「話の中心を意識すること」を確認する。 ・事前に「声の大きさ」や「話す速さ」、「目線」のポイントを示した上で動画を視聴させる。相手に伝わるスピーチの仕方について押さえる。 ・学習計画表を使って前時までの学習を振り返らせる。 ・学習計画表をスクリーンに投影し、本時が単元のどの位置にあるのかを把握させ、学習の見通しを持たせる。 	

<p>展開 28分</p>	<p>5 組み立てた話のスピーチの練習をする。 ○グループになって、スピーチの練習をしましょう。 ○ペアで話し手と聞き手を決めましょう。 ○聞き手の人は、話し手のスピーチを聞いて、アドバイスカードに「伝えたい話の中心が分かったか」についてチェックしてあげましょう。 ○チェックしたアドバイスカードを渡すときに、スピーチの良かった点や工夫すると良い点など感想を伝えましょう。 ◆話し手は、相手に自分の「好きな時間」が伝わるようにスピーチする。 ◆話し手のスピーチを聞き、アドバイスカードにチェックする。 ◆聞き手は話し手のスピーチの良い点や改善点など感想を伝える。</p> <p>6 グループで練習してスピーチの良い工夫や課題を全体で共有する。 ○グループで練習をして発見したスピーチで工夫しているところを紹介しましょう。 ◆伝えたい話の中心をはっきりさせて、スピーチする。 ◆気持ちを表す言葉を使ってスピーチする。 ◆スピーチカード（原稿）を読むのではなく、相手を見てスピーチする。 ◆声の大きさや読む速さ、間の取り方に注意してスピーチする。</p> <p>7 再度グループで練習する。 ○友達からのアドバイスやみんなで確認したことを生かして、もう一度グループでスピーチの練習をしましょう。 ◆話し手はスピーチの話の中心をはっきりさせて練習する。 ◆聞き手は最初のスピーチとの違いを意識して聞く。</p>	<p>グループ グループ 一斉 グループ</p>	<ul style="list-style-type: none"> グループで練習する際は、発表に苦手意識を持っている児童もいるため、スピーチカード（原稿）を手元に置けるようにし、安心して取り組むことができるようにする。 「話の中心が伝わったか」の一点に注目して話を聞かせる。 聞き手が良かった点や改善点など一言感想として話し手に直接伝えさせる。 その際、アドバイスカードにチェックを記入して渡すのではなく、スピーチを聞いて良い点や改善点など一言感想を伝えさせ、話し手が自分のスピーチの表現がどう受け止められたかを実感できるようにする。 友達のスピーチの良い工夫や改善点について全体で共有する。 「伝えたい話の中心」の他に「気持ちを表す言葉」、「相手に伝わる話し方（目線・声の大きさ・話す速さ）」など聞き手が注目した表現や改善のヒントとなった意見も取り上げる。 個別に支援が必要な児童には、発表内容の順序や言葉の工夫について、教師や友達が具体例を示すことで、改善点を取り入れやすくさせる。また、スピーチカードやメモカードを用いて、伝えたい話の中心を視覚的に整理させる。 友達のスピーチの良い工夫や改善点について全体で共有したことを生かして、グループでもう一度練習させる。 聞き手は、最初のスピーチとの違いや改善された点に注目させる。 	<p>【思①】 支援ツールの記述、スピーチの発言 ・相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えている。</p> <p>【態①】 支援ツールの記述、スピーチの発言 ・進んで話の中心をはっきりさせるために工夫し、学習の見通しを持って自分について話そうとしている。</p>
-------------------	---	---	--	---

